

ふれあい

No. 12

編集発行

上越市立春日小学校

校長 田邊 道行

冬に逆戻りしたかのような3月でしたが、全国から桜の便りが聞こえる頃となりました。今年度の授業日数は約200日。コロナ禍が明け、様々なことができるようになった1年間でした。子どもたちを見守り、学校を支えてくださいました保護者、地域の皆様、大変ありがとうございました。

明日は卒業式。117名の卒業生が旅立ちます。今回は、終業式で子どもたちに話したことを紹介します。

今年の1月、第170回芥川龍之介賞に選ばれたのは、九段理江さんの「東京同情塔」という作品でした。9年前には、又吉直樹さんの「火花」という作品が選ばれ話題になりましたが、本日、子どもたちに紹介したのは、第3回芥川賞を受賞した小田嶽夫さんです。小田さんは、東京外国語大学を卒業して外務省に8年間勤務しましたが、そのうちの4年間は中国の領事館で働きました。この中国での経験を参考にして書いた「城外」という作品で芥川賞を受賞したのです。今から88年前、1936年のことでした。その23年後1959年に小田さんが故郷で作った歌について子どもたちに説明しました。



小田 嶽夫

1番は、ふるさとの美しさを歌っています。小田さんの出身地は高田です。頸城平野の豊かさ、そこから見える日本海の大きさ、春日山の清々しさを挙げて、我がふるさとは美しいと歌っています。

2番は、人とかかわりを通して生まれる誠や愛を花々にたとえて、力を合わせて真心の花を育てようと歌っています。そして、学校で咲かせた真心の花の香りを、月に届くくらい広げようと呼び掛けています。

3番では、学ぶことは遠くまで続く山の小道を一步一步進むように簡単ではなく、楽しいこともあるけれども辛いこともあると歌っています。その上で、学ぶことによって、正しく判断する力を身に付けて、平和を守る人になろうと呼び掛けています。

もうお分かりでしょう。子どもたちに説明した歌は、春日小学校の校歌です。

春日小学校 校歌

一、頸城の平野 おおらかに

日本海は はてしれず

春日の山の 清らけく

ああうるわしい わが郷土

二、学びの庭に 咲きにおう

誠と愛の 花々を

力を合わせ 育てよう

月まで香り とどかせよう

三、学びの道は 遠い道

楽しくつらい 峰小道

学んで正しい 人になろう

平和を守る 人になろう

作詞・小田 嶽夫

作曲・小山郁之進

終業式ですので3番の一部を取り上げて次のように話しました。

歌詞に「学びの道は遠い道」とあります。この1年間、約200日の登校日がありました。200日間は長い時間で遠い道のりです。「楽しくつらい峰小道」という歌詞もありますね。わくわくする楽しい日もありますが、気分が乗らなかつたり、やる気がでなかつたりして、登校するのが辛い日もあったことでしょう。

それでも、休みの日以外は、学校を1日も休まずに登校した人がたくさんいました。全校710人のうち、何人が欠席とならずに登校したと思いますか。コロナやインフルエンザなどの感染症でお休みした場合や学級閉鎖は欠席にはなりません。答えは、118人でした。

さて、芥川賞ではないですが、昔は、休まず学校に登校した人は、皆勤賞や皆出席賞であると言われました。しかし、今は、そういう賞はありません。どうしてだと思いますか。それは、毎日学校に登校することがよいことであると強く言い過ぎると、学校を休むことがいけないことのように聞こえてしまうからです。

新型コロナウイルスに家族が感染したときに、自分が感染していないと思うけれど、もしも感染していればほかの人に移してしまうかもしれない…ということを心配して、勇気を出して学校を休んだ人もいました。また、様々な理由があつて学校に来ることができない人もいます。登校したいと思つていても、登校できない場合もあります。怠けているわけではなく、がんばつていても登校できないこともあるのです。そのようなことを考えると、毎日登校した人だけに賞が与えられるのは、おかしいと考える人が増えたのです。

ただ、賞ではなく、私は純粋に「毎日登校できたことはすごいなあ…」と感じたのですが、皆さんはどうですか。私と同じように、すごいなあ…と思つた人は拍手で気持ちを表しましょう。

さて、「皆勤・皆出席」の代わりに出てきた言葉は、「精勤・精出席」です。どういう意味かという、毎日ではないけれど、精一杯登校した、精一杯出席した、という意味です。今日ここにいる人もいない人も全部含め、自分を含めて、この1年間精一杯学校に来た人たち全員が該当します。みんなで、頑張つた人たちと、頑張つた自分に拍手を送りましょう。

来年度、もしも気分が乗らなかつたり、やる気がでなかつたりして、登校するのが辛い日があつたら、「ま～なびの道は、と～おい道～、楽しくつらい、み～ね小道～」と「楽しく」を強くして歌いながら登校しましょう。そもそも学びの道は、近くて整備された道ではないことを考えれば、辛いときもあるはずで、それでも、それを乗り越えれば、きっと楽しいことが見つかりますよ。

最後です。小田嶽夫さんが作つた春日小学校の校歌を、今年度の1年生から6年生まで全校がそろつて歌うのは今日が最後になります。また、6年生が全員で校歌を歌うのは明日の卒業式が最後です。6年生を送り出す1から5年生までの5学年分の気持ちを込めて、5年生が代表して校歌を歌います。

みんなで、誠と愛のこもつた歌声を月まで届かせるように歌いましょう。

保護者や地域の皆様は、ご自身の母校（小・中・高）の校歌を覚えていらっしゃるでしょうか。子どもたちには、母校の校歌を大切にしていってほしいと願つています。